

みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長 小野崎 秀 通

宮城梅花 平成 30. 5. 20 発行 第51号

発行所 曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字檜町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803



冬ゆきの

いのち伝えん春ははな

夏ほととぎす

秋はもみぢば

正行御和讃(道環)

『写真と歌詞』

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤 政裕

齋藤政裕先生には、今年も愛情あふれる素晴らしい写真と文章を賜りました。

写真とテーマ解説の全文は、9ページに掲載させて頂きましたので、ぜひご覧下さい。

「詠道は信心の誓い」



宗務所梅花講長

小野崎 秀通

道元禅師は『正法眼蔵道心の巻』に

「深く仏法僧の三宝を敬ひ奉るべし。

生をかへ身をかへても、三宝を供養し、

敬ひ奉らんことを願ふべし。寝ても覚

めても三宝の功德を思ひ奉るべし、寝

ても覚めても三宝を唱へ奉るべし。」

と教示されています。三宝は仏教徒の

柱です。三宝を身と口と意（こころ）

をもって深く敬礼してこそ信仰ある生

活であり、詠道の精進はその実践であ

ると言えましょう。

梅花流は静岡県洞慶院 丹羽仏庵老

師の働き掛けで、昭和二十七年の道元

禅師七百回大遠忌を契機として発足し

ました。

曹洞宗では、戦後、教化方策に音楽

布教を取り入れようと、『仏教式典散

華舞曲 ①四弘誓願 ②法の深山』が

発表され、この跋文に「大遠忌法要を

記念して」当時の総長 本多喜禅老師

が「来る昭和二十七年高祖大師七百回

大遠忌を迎えるに備えて」「僧侶も寺

族も子供も青年も、みんな、楽しく

明るい法要が営まれ布教教化が活発と

なつて一日も早く平和世界の現状せん

ことを祈って止まない」と寄せていま

す。「新日本建設」に即応するという

時代背景のもとに梅花流も生み出され

ました。

「正法日本建設運動 明るい日本

正しい信仰 仲良い生活」という教団

統一スローガンをもとに、「お誓い」

が作られています。これが元となつて、

昭和四十二年に永平寺を会場に開催さ

れた「梅花流創立十五周年記念全国奉

詠大会」で、当時 高階管長が御垂示

をなされた中で、この奉詠大会を記念

して制定されたお誓い「三ヶ条」の詞

が初めて説明されています。

「私達は梅花流詠讃歌を通して、正

しい信仰に生きます」まず自己を反省し、自己を中心としての精神の持ち方である。

「私達は梅花流詠讃歌を通して、仲良い生活をします」家庭を中心とした反省で、家内中、また親類、近所隣、皆仲よく暮らすという精神の持ち方である。

「私達は梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります」社会を中心とした反省で、生きとし生けるものみなをもらさず、仏の道を伝える、行の精神の持ち方である。

曹洞宗の檀信徒として梅花流の詠唱を行ずる方々は、常にこの三ヶ条の精神を以って、自己を、家庭を、世界を立派なものにするとう云う覚悟で斯の道を精進して貫きたい。

以来、五十年の間お誓いして来ましたが、三宝の功德をいただき、明るく、清らかに、仲良く暮らす幸せを実現できまますよう精進してまいりましょう。

仲間と共に

第一教区 明川寺講員

松 本 かず子

私が御詠歌に出会えたのは、知人のご葬儀でした。ご焼香の間、和尚さんがずっと唱えておられました。お声が良かったのです。

その曲が御詠歌だとは知りませんでした。が、不思議と心に残りました。

数年後、夫がそのお寺のお世話になることになり、そこで梅花講を知り、申し込み参加することに致しました。

御詠歌の予備知識がほとんどなく、まだ習い初めで、法具の扱い方や作法などが難しく、戸惑ってしまい、なかなか覚えられません。それに音感のない私は、メロディーに夢中になっていると手元がおろそかになり、周りの方を見てパニックになる有様です。

譜面の記号は読めるようになりましたが、声をその音程に合わせることが出来ず落ち込んだりしております。



写真右側筆者

しかし「梅花講は一人では無くみんなで唱えるものだから大丈夫です」とご指導してくださる御住職のやさしい励ましの言葉に後押しされ、練習しております。

検定があることにも驚き、今は何人かでまとまって受けている段階ですが、級が上がれば一人での受検と聞き、プレッシャーに弱い私は、そこまで行け

るのかどうか分らないのに、今から心配しております。

歌詞には深い意味を感じますし、唱えておりますと安らぎを感じ、穏やかな気持ちになることが出来ます。

県大会や一泊講習会などで他のお寺の方々とお知り合いになれたり、練習後の仲間とお喋りも楽しかったりと、御詠歌をはじめて良かったと感じております。これから皆さんと一緒に唱えられる曲を増やしていきたいと思っております。

梅花講に出会って

第十一教区 耕徳院講員

生 出 静 子

今年の冬の厳しい寒さには驚きですね。

私にとっても大変な事が起きました。「みやぎ梅花」に投稿してみたとの事。一層身に染みる寒さです。

私は第十一教区、耕徳院の議員です。元来歌が大好きなので、友人から誘われると軽い気持ちで入講、今年で十四年目に入りました。

練習会では「御詠歌は演歌調ではだめですよ」、「一人前になるには十年はかかりますね。」「カルチャーショック」、それから、毎年の講習会・全国大会には必ず出席し今日に至っています。唱えの奥深さに戸惑いながらの日々でした。

お寺での練習会では寺族様の温かい心尽くしのお茶・菓子等で、年の差等関係なく和気藹々わきあいあいと笑い声が絶えません。

現在議員は二十五名ですが、皆、検定という目標に向かって日々精進と努力によって、新人議員を除くほぼ全員が上級者です。

私の心に強く残っている法話の一部があります。平成二十六年十月大本山永平寺での講習時、当時の永平寺副監ふくかん



写真中央筆者



院にん丸子孝法老師の法話の中で好きな詩人「おさはるみ」の詩の最後に必ず自分なりの節を付け歌うそうです。

「私が私になる為に人生の失敗は必要でした。」「無駄な辛苦も骨折りも悲しみも、全て必要でした。」「私が私になれたのは皆なあなたのおかげです。」「恩人達に掌を合わせ有難うございます。」「と、「ひとり言」心に染みました。常に感謝と何事をも受け入れる懷を持つ事の大切さを、痛感しました。

私達の講は、葬儀時のお唱えの前に全員で声合わせをします。遺族の方の心情に思いを馳せ「心を一つに唱えましょう」と、会長さんの声掛けで本堂に入ります。一体になることで自ずと心に響くお唱えになる事でしょう。今後長谷先生の教えの元、議員一同、心を一つに精進して行きたいと思っています。

御詠歌をはじめて

指導者養成所員

第十七教区 観昌寺寺族

門 脇 菜穂美 詠範

同期は詠範三、師範八、計十一名です。二年間一緒に練習してかわりを重ねると、「この人はいつも早く来てみんなの席を用意してくれるな。」「あの人はいつもしっかり練習をしてきているな。」など、互いの個性が察せられてくるものです。

やっぱり師範さんは声量があってお唱えがうまく、所作が美しく決まっています。すごいなあと思います。私は「寺族の心構えとして必要だから」と背中を押されて通い始めたところ、師範さんの真摯^{しんし}なお唱えを聞いて、目が覚めたような気持ちになりました。御詠歌を通して仏法に帰依する心持ちや姿勢を感じ取りなさいということだったのかなど、今では考えています。先生のお

人柄もあって、なごやかに同期の関係性が強まり、縁の結びつきを感じます。印象深いのは県大会です。会場は仙台市体育館でした。私達の順は一番で、

三宝御和讃をお唱えしました。同期の師範さんが詠題・詠頭を務めました。

私達のおひろめなので、会場が興味津々に耳を澄ませているのが分かりました。壇上でも、師範さんのお唱えはよく響いてとても上手だと思いました。私は大きな間違いなくできたので、ほっとしました。家族や講員さんにも「良かったです。」と声掛けしてもらったので、一層安心しました。

御詠歌を習って、行事について知り、行事にふさわしい御詠歌が多様にあることを知り、その参加の仕方が変わりました。以前は臨席して拝むという参加でしたが、今ではお唱えできるものができました。全体でお唱えすると、より仏法の世界に入り、充足感を得ることが出来るように思います。

御詠歌で結んだ縁を大切に、寺族の自覚をしっかりとって、できることを積み重ねていきたいと思っています。

教区梅花講紹介

第五教区 龍雲寺副住職

佐 藤 邦 彦 師範

私達、第五教区梅花講の活動紹介を致します。

さて、第五教区梅花講には、第五教区全二十六ヶ寺中、半数の十三ヶ寺が所属しており、年度初めの総会には、十三ヶ寺各講の講長と共に、講員さん二名ずつ出席頂いて、第五教区梅花講の運営に参加しております。

活動としては、各講習会への参加、宮城県奉詠大会、全国奉詠大会への参加など、それぞれが努力、研鑽^{けんさん}しております。蔵王賽^{さい}の河原で行われる萬霊

供養にも参加し、密厳流の皆様と共に一人一人が追悼の意を込めてお唱えております。

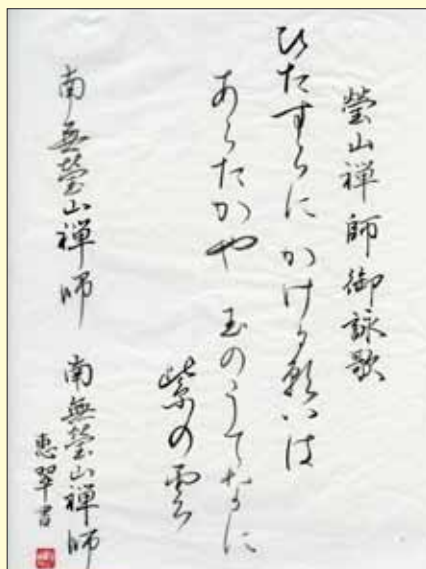
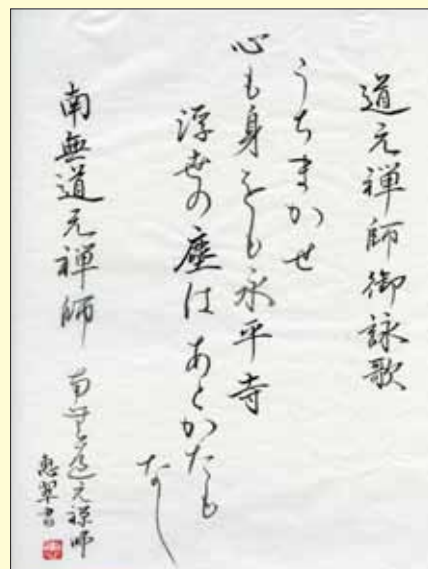


第20回 第五教区梅花流奉詠大会 於：秋保温泉 ホテルニュー水戸屋 平成29年11月6日

また、毎年、一泊二日で教区奉詠大会を開催しており、平成二十九年度は第二十回目となる記念大会を迎え、午前中は登壇奉詠、昼食後、午後からは講習。その後、第二十回記念アトラクションとして、多方面でご活躍されている宮城のエンターティナー庄司恵子さん、娘さんと津軽手踊りをされる、た・ら・さ・わ・か・す・み・さ・んのお二人にお越し頂き、恵子さんの民謡と明るいお喋りで笑顔を。かすみさんの般若心経に合わせて踊る「御霊天空の舞」で感動を受けました。

今後とも教区奉詠大会だけではなく、各行事で師範の皆さん、詠範の皆さんが意見を出し合い、また、講員さんの意見も大切に、より良い第五教区梅花講になるよう努力、精進して参りたいと思っております。

みやぎ梅花歌壇



第十六教区 補陀寺講員
小山 千工子

訃報

美里町 東光寺 住職 武者宥道むしゃゆうどう師範



平成二十九年十月二十七日、美里町東光寺住職 武者宥道先生が世寿（行年）九十一才にて遷化せんげ（逝去）されました。

武者先生は、昭和五十六度より宗務所講師・検定委員・評議員をお勤めになり、平成三年には宗務所副講長の要職に就かれ、平成四年には、二級師範に昇進されました。

梅花流創立五十周年記念奉讃大会（平成十四年度全国大会）では、功績をたたえられ表彰を受けられました。

長きにわたり熱心なご指導をもって梅花流発展のため御尽力され、多大な足跡を残されました先生に対し、謹んでご遷化せんげを悼み哀悼の意を表します。

訃報

静岡県藤枝市 光明寺 前住職

岡田達夫おかた たつゆう師範

平成三十年二月二十三日、長年にわたり当県梅花講をご指導いただきました、静岡県 岡田達夫先生が世寿（行年）八十一才にて遷化せんげ（逝去）されました。

岡田先生は、昭和五十五度より十年間特派師範、平成二年から二年間梅花流専門委員、平成四年から六年間再び特派師範の要職に就かれるなど、多大なるご功績を残されました。

当県におきましては、昭和五十九年度より平成十五年度まで特別講習会の講師をお勤めいただき、特に同十二年度以降は主任講師として熱意あふれるご指導を頂戴いたしました。

謹んでご遷化せんげを悼み哀悼の意を表します。

※平成十七年発行「みやぎ梅花第四〇号」岡田先生のご寄稿文を再掲載させていただきます。

みやぎ梅花の皆さん

本当にありがとう



静岡県 光明寺

岡田達夫おかた たつゆう師範

年が明けて正月を迎える頃になると、「今年もまたやがて水戸屋さんの講習会がやってくるな、講習さんにどんな講習をして、何のお話をしようかな・・・」と知っているうちに早二月になり、準備の整わないままに仙台行きの日が来てしまう。そんなことの繰り返しをしているうちに、二十年の歳月が流れてしまいました。

宮城県に梅花流特派講習の巡回の経験も無い、当時まだ二級師範の私が、城山先生のお招きに乗せられ、永田先



生のお供をして初めて宮城県に講師としてお世話になったのが、昭和五十九年七月十一日から十三日までの「鳴子町やよい荘」の講習会でした。

宮城県の議員さんの優しさと暖かさに支えられて、議員さんと共に自分自身が勉強と研修の積み重ねの毎年の講習会でした。熱心な昼間の講習が終わり、二日目の夜の部が始まります。ま

ず始めはご当地の民謡「さんさしぐれ」で幕が開きます。このこともお世話になって初めて知り、その後テープを求めて覚え、講習会で謡ったこと（うた）もありました。続いて芸達者が次から次と出演、楽しいひとときを皆さんと共に過ごしました。

平成四年は私にとって最も過酷な年でした。本庁講習、特請講習、特派講習と出張が続き、とうとう喉を傷めてしまいました（いた）。声帯結節で声が出ない状態となり、落ち込み悩みました。出来るだけ

声を使わないように配慮し、周囲の大勢の方々のお心配りと、親切な応援を頂いて、お陰で少しづつある程度まで回復いたしました。ありがたく思っ

ております。その頃の講習資料を開くと、声が出ないことで悩み落ち込んだこと、少しは声の出方が良かったとか、お話で少し盛り返した等の一喜一憂（うれ）が記されており、懐かしい思い出です。

数年前、体調を崩してお世話になれなくなりましたが、いつも水戸屋さんでのご縁のあった皆様のことを忘れたことはありません。体調の良い時は、もう少し頑張つて講習会に参加したかったな、と思ったりもします。しかし自身の力の限り勤めさせて頂いたのですから、悔いはありません。

暖かく支えて下さった大宮先生、県内各師範、詠範さん、檀信徒議員さんに心より厚く御礼申し上げ、御地の梅花流の益々のご発展を念じております。宮城の梅花議員さん、本当にありがとう。お元気で・・・さようなら。

表紙説明

冬ゆきのいのち伝えん 春ははな

夏ほととぎす 秋はもみじば

正行御詠歌《道環》



今年の寒さは格段でございましたが、ある雪のぱらつく早朝、二階の部屋の前に、光り輝くようなこの鳥が、雪を背にしてじっと佇んでいました。日本の国鳥に指定されているキジの雄です。なにか、鷹でも気にしているのか、身じろぎひとつしません。本当に美しい。頭部や尾羽、全体のバランスもさることながら、特に色彩が絶妙です。目の周りの鮮やかな赤色をポイントとして、深い地下水の如くの碧色を帯びた首色、見る角度や光線状態で微妙に青色とも緑色とも光り輝く胸の色、又、絶妙な茶色背羽のバランスなど、まさに生ける宝石の如くでございました。初めて間近にこの鳥を見て、なぜ、キジが国の鳥なのかという長年の疑問が一瞬にして解決しました。美しいのです。

同時に、正行御詠歌《同環》の歌詞が自ずと心の中にわいてきました。

「冬ゆきのいのち伝えん 春ははな

夏ほととぎす 秋はもみじば」

寒さ辛さに耐えて、そこに蓄えられた命が春を迎え花と咲き、夏には鳥たちが歌い、秋には綿秋のもみじもまた

散って、再び厳しい冬を迎える。私たちはこの素晴らしい大自然を仏様のお姿の表れと受け止め、大事にし、次代に伝えていかなくてはなりません。この道環の教えが、この鳥を見てより心に染み入りました。

この目の前の、光り輝くこの鳥に至るまでの、何千年、何億年という悠久の命の継承、この鳥だけではない、周りのすべての命の素晴らしさ、尊さ、輝き、これらが、いかに掛け替えの無い本当に大事なものであるのか、そして、それらを仏の命として、しっかりと受け継ぎ、後世まで継承していかなくてはいけないとつくづく感じ入った次第でございました。この鳥を、この一瞬を、心からいとおしく思い、仏の命としてこの自然、この命全てが永遠にと念じつつ、静かに心のシャッターを押させていただきました。

写真と文

元梅花流特派師範

眞源寺住職 齋藤政裕

宗務所講習会

本年度は奇数教区で開催いたします。
担当師範は、次のとおりです。

一教区	奥野秀典師範
三教区	本多賢浩師範
五教区	渡邊泰信師範
七教区	高橋恵一師範
九教区	藤澤智洋師範
一一教区	曳地徳宣師範
一三教区	三宅俊乗師範
一五教区	石川素宏師範
一七教区	佐藤正明師範
一九教区	橘智法師範
二一教区	高橋信弘師範

・受講料は、お一人千円です。

特派講習会

日程は次のとおりです。例年どおり、
四ブロックで開催いたします。

・受講料は、お一人千円です。

Aブロック		
期日	教区	会場
六月十一日(月)	一八教区	長照寺
十二日(火)	一七教区	光岳寺
十三日(水)	九教区	富光寺
十四日(木)	一〇教区	東溪寺
十五日(金)	二〇教区	松窓寺
Bブロック		
期日	教区	会場
六月十一日(月)	一六教区	興福寺
十二日(火)	一四・一五教区	香林寺
十三日(水)	一三教区	法山寺
十四日(木)	一二教区	建立寺
十五日(金)	一一教区	光明寺
Cブロック		
期日	教区	会場
六月十一日(月)	二教区	江巖寺
十二日(火)	二一教区	清水寺
十三日(水)	三教区	養松院
十四日(木)	七教区	糟川寺
十五日(金)	八教区	積雲寺

Dブロック

期日	教区	会場
六月十一日(月)	一教区	圓福寺
十二日(火)	五教区	東禅寺
十三日(水)	六教区	自照院
十四日(木)	一九教区	當行寺
十五日(金)	四教区	東禅寺

御礼 募金のご報告

宮城県曹洞宗青年会
サンタピアップ宮城ボランティア会

会長 長谷川 俊昭

平成二十九年県大会の際には、カ
ンボジア教育支援募金をお願いをさせ
て頂きましたところ、お陰様で、左記
の通りたくさんのご芳志を頂き、誠に
ありがとうございました。

皆様からお寄せ頂いたご厚情に心よ
り感謝申し上げますと共に、謹んでご
報告申し上げます。

教育支援募金 五一九、〇一七円

合格おめでとう
ございます

平成二十九年度は、次の方々が宗務
庁検定で合格されました。

三級師範

山元町 鳳仙寺 坂野 敦 至

一級詠範

大崎市 円通院 花 釜 祥 子

二級詠範

石巻市 林昌院 佐 藤 嘉恵美

正詠教範

美里町 真禅寺 武 中 富久子
美里町 興安寺 伊 藤 智重子

一級教範

石巻市 龍谷院 佐々木 律 子
栗原市 法泉寺 久 光 たみ子

二級教範 (宗務所検定合格者を含む)

美里町 真證寺 佐々木 信 子
美里町 皎善寺 齊 田 克 子
石巻市 満照寺 五 島 さよ子
気仙沼市 補陀寺 齋 藤 恭 子
栗原市 長興寺 佐 藤 とよ子

新しい講の紹介

新しいお仲間です。どうぞ仲良くし
て下さい。

教 区 地 区 講 名

第一五教区 登米市 福田 寺講

宗務所検定会

今年度は二会場で開催いたします。
充分勉強されてから、受検して下さい。

十月二十三日(火) 石巻市 法山寺様
十一月一日(木) 仙台市 林香院様

※「二級教範」は、検定委員の資格の
関係で、本年は、十月二十三日
石巻会場のみで受け付けます。

・いずれも午前九時受付です。
・検定料はお一人 四千元です。

特別講習会

期 日 二月二十一日(木)

午前九時半 受付

〽二月二十二日(金)

十三時 解散

《一泊二日》

会場 秋保温泉「ホテルニュー水戸屋」

TEL 〇二二ー三九八ー二三〇一

受講料 ・ 宿泊 二万二千元

・ 日帰り 一万四千元

(予定です)

定員 三〇〇名

申込 詳しくは、後日各講宛にご案
内いたします。

〆切 平成三十一年二月八日(必着)

講師 県外講師 五名の師範
県内講師 一名の師範

※ 受講料・内容ともに、変更する場合
があります。

平成30年度 梅花流宮城県奉詠大会

1. 期 日 平成30年10月4日（木） 午前9時受付 午後4時散会予定
2. 会 場 仙台サンプラザ 仙台市宮城野区榴岡5-11-1
3. 会 費 参加費 一人 金5,000円 寺院協賛金（任意） 一口 金5,000円
4. 〆 切 7月31日（予定）

☆詳しい要項は後日各講宛ご案内いたします。

☆申込後の会費の返却はいたしません。

登壇奉詠課題曲

★予定です

登壇順	教 区	課 題 曲	頁
1	指導者養成所	三宝御和讃	15
2	10	報恩供養御詠歌（澄 心）	237
3	18	高祖承陽大師道元禅師讃仰御和讃	149
4	5	開山忌御詠歌（真清水）	189
5	⑦・8	追善供養御和讃	227
6	13	追善供養御詠歌（妙鐘）	231
7	⑥・19	平和祈念御和讃	239
8	2・④	達磨大師御詠歌（廓然）	121
9	1	同行御和讃	247
10	3	同行御詠歌（道交）	251
11	12	四摂法御和讃	31
12	21	地藏菩薩御詠歌（慈念）	113
13	⑪・20	正行御和讃	265
14	14	正行御詠歌（道環）	269
15	⑮・16	修証義御和讃	23
16	11	修証義御詠歌（伝心）	27
17	9	御授戒御和讃	197
18	師範・詠範	花供養御和讃	193
		花供養御詠歌（供華）	195

☆ 教典頁は、平成14年改訂第二版のものです。

☆ ○印は、合同登壇される組の、詠題・詠頭 担当教区です。